

## 2010年度 修士学位論文審査資料

生活科学専攻	氏名	川西 由真 Kawanishi Yuma	学生番号	097501
論文題目	複合施設的设计計画 A Planning Research of a Building with Three Different Facilities			

### 要旨

広島女学院では創立 150 周年に向けて将来構想が策定された。その概要では広島女学院が広く市民に提供する「場」として「保育所」、「エクステンションセンター」、「学生寮」が示されている。これらは、共働きの家庭のサポート、社会人のためのスキル向上、学生生活へのサポートを担うものである。

この構想を前提として、本稿では広島市の旧市街地に位置する広島女学院中高寄宿舍跡地に、「保育所」・「エクステンションセンター」・「学生寮」という 3 つの機能を備えた複合施設の計画を行う。

計画を進めていく上で必要となる設計の与条件を、以下のプロセスで整理する。

- ① 計画案に含まれる「保育所」・「エクステンションセンター」・「学生寮」に求められる機能に関して示す。また、類似施設に関しての調査から計画案に必要な空間の構成に関して整理する。
- ② 計画案を構成する室に関して建築基準法で満たされるべき項目を整理し、この項目のチェックすべき項目をリストとして作成する。
- ③ 敷地周辺状況、立地条件を調査し、利用者、使われ方などを想定し計画案に求められる要件を整理する。
- ④ 敷地に関連する建築基準法等の法規を整理し、加えて、市役所等関連審査機関でのヒアリングにより考慮すべき点を整理する。

上述した①～④の内容を踏まえ、コンセプトをまとめる。ボリューム模型・エスキース案の作成を通して、コンセプトに見合った計画案を検討する。そして、より実現可能な計画とするため、エスキース案に改善を加えた広島女学院中高寄宿舍跡地設計計画の提案を行う。

計画敷地は、広島市の旧市街地に位置し、南北方向に少し細長い敷地 1196.14 m<sup>2</sup> (間口 36.57m×奥行き 32.70m) であるが、比較的正方形に近い敷地で、平坦な場所に位置している。また、東側幅員 10m の道路に接している。敷地周辺にはアーバンビューグラントワーや縮景園がある。敷地から徒歩 5 分以内で、広電白島線やバス路線を利用でき、便利な立地である。

道路に面している東側は、歩道がないため保育所の送り迎え用停車スペースの配置、保育所・エクステンションセンター・学生寮の

利用者への安全性を十分配慮する必要がある。現在、駐車場として利用されている南側は、将来、高層の建物が建つ可能性もあるため、それを踏まえた設計計画を行う必要がある。

上述した①の結果により、3つの機能に取り入れるべき共通の要素を、「開放感」・「コミュニケーション」とし、図2に示すA案～T案、20案のボリューム検討を行った。対象となる周辺模型と20案のボリューム模型を縮尺 1/500 で作製し、周辺模型にこれらを順次置き、各案の特徴やそのボリュームが建物として具体的にどのように利用できるか、あるいは周囲にどんな影響を与えるかについて検討した。そして、この敷地に適していると考えられる案をC案・E案・G案とした。

C案は、2階の保育所の東側及び西側屋根にテラスを設けている。敷地の西側に隣接する中学校校舎は低層であるため、西側テラスからの眺望が期待できる。E案は2階の保育所の南側屋根及び4階のエクステンションセンターの東側屋根にテラスを設けることで学生寮共用部を開放的な雰囲気とすることができる。加えて、エクステンションセンターの東側は片持ち梁で構成することにより道路と建物の距離を置くことが可能となる。G案はエクステンションセンターと学生寮を「コの字型」プランとすることで、中心にテラスを設けることができ、この部分からの彩光が期待できる。



図1 計画敷地及び敷地周辺の様子

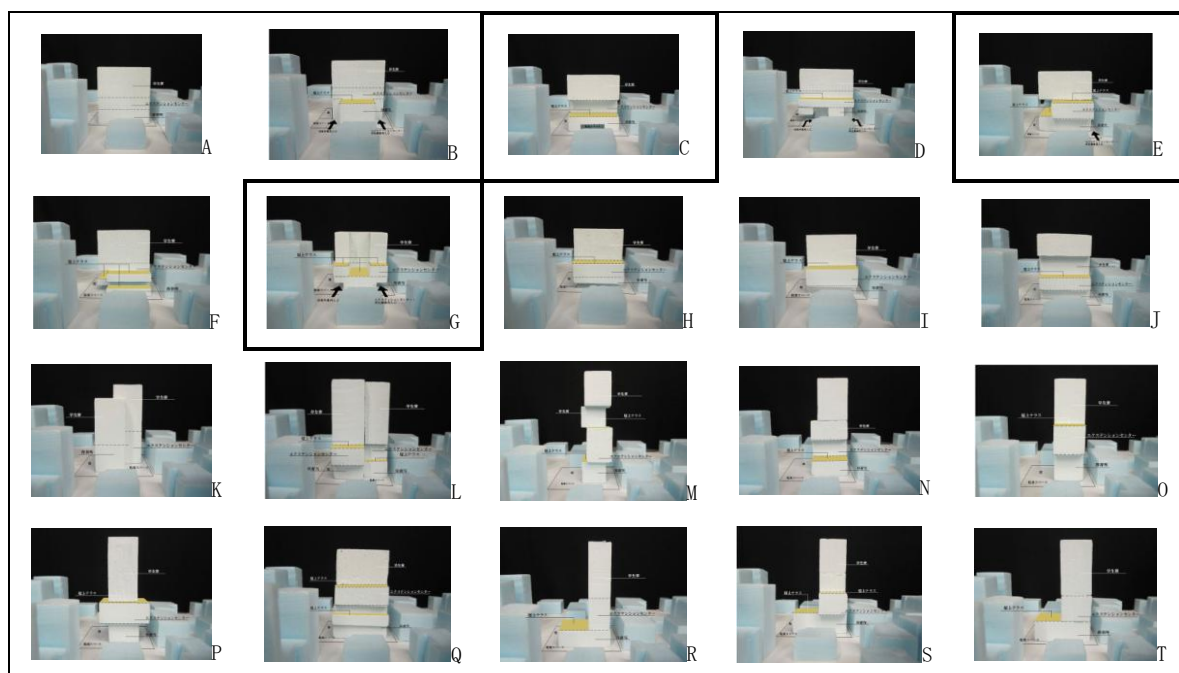


図2 20案のボリューム模型

3つの案から、より実現性の高い建物形状を選択するため、エスキースによる検討を行う。その基準を、保育所は庭を出来るだけ多く確保できること、利用者の使いやすさから、動線の複雑にならないシンプルなプランであることの2点とする。C案・G案と比較すると庭を確保できるスペースが多く四角い箱型をしたE案が適していると考えられるため、E案を基に複合施設設計計画を行うこととする。

E案の遊戯室は東側に設けているため、彩光が十分にとれるだけでなく、道路側から遊戯室の様子が垣間見える。遊戯室に隣接する庭は北側と南側に配置し、遊戯室から直接出ることが出来る。1階の保育所に事務カウンターを設けることで、乳児室と遊戯室にいる子供たちに常に目を配ることが出来る。2歳・3歳の保育室は必要に応じて空間を区切ることが可能である。図書スペースからは遊戯室が眺められるだけでなく、庭も見えるため、開放的な場所である。3階・4階のエクステンションセンターは講義室のほかに、視聴覚室やセミナー室を設けている。3階のラウンジから屋上テラスへ出入りできる。学生寮の居室は東側・西側に配置されているため、彩光が十分に得られる。

さらにE案は、庭にした部分のスペースを見直すことで、保育所の収容人数増加が見込まれる。学生寮の居室内の柱は、居室の部屋割りによって、より柱を意識しないプランにできると考えられる。上述した内容を踏まえて実施設計を行った。

## ■外構計画

北側にエクステンションセンター・学生寮のアプローチを設け、南側に保育所のアプローチを設ける。また、学生寮専用の駐輪場を設け、保育所専用バス1台、乗用車4台分の保育所専用駐車場を設ける。ただし、駐車場は子供の送り迎えの際の一時的なものとする。

## ■保育所

乳児室は32名、保育室(2歳)は20名、保育室(3歳)は20名、保育室(4・5歳)は62名収容可能である。保育所は、必要に応じて、建具を開けば一体空間となり、子供達が走り回れるような広々とした空間とした。また、多くの彩光を取り入れるため、大きな開口部とした。遊戯室から直接屋外テラスへ出ることができ、子供達は外部と内部を自由に行き来できる。遊戯室を介して、各部屋へ移動することにより、幼児間のコミュニケーションが多様となる。受付カウンター・2階の職員室からは遊戯室を眺めることが出来るため、子供たちの行動を常に確認することが出来る。遊戯室に吹き抜けを設けたことにより、1階と2階につながりを持たせ、どの部屋からでも人の気配を感じ取ることが出来る。階段を上ってすぐの廊下の図書スペースは、子供達が気軽に利用できるように2階の中心に設けた。

2歳・3歳の保育室、4歳・5歳の保育室はそれぞれ可動式の収納棚を設け、必要に応じて仕切りの役割を果たす。

## ■エクステンションセンター

20名~30名程度収容できる講義室を設け、10名程度のセミナー室を設けている。中心のラウンジを介して、各教室に移動する。ラウンジと屋上テラスは、利用者の憩いの場となるように意図した。4階には図書スペースを設け、利用者の時間外の勉強の場とする。

## ■学生寮

5階から12階は学生寮である。東側と西側に居室を配置し、中廊下から各居室へ移動する。中廊下型は、居室の彩光を優先的に得ることができる。5階・7階・9階・11階は学生寮を利用する人々の交流する場としてラウンジを設けた。5階にある屋上テラスは学生寮の利用者のための共用スペースである。6階・8階・10階・12階は吹抜としている。各階ごとに7つの部屋を設ける。平面プランはL字型と長方形の2種類で、L字型の平面プランは柱を意識させないことを意図している。

